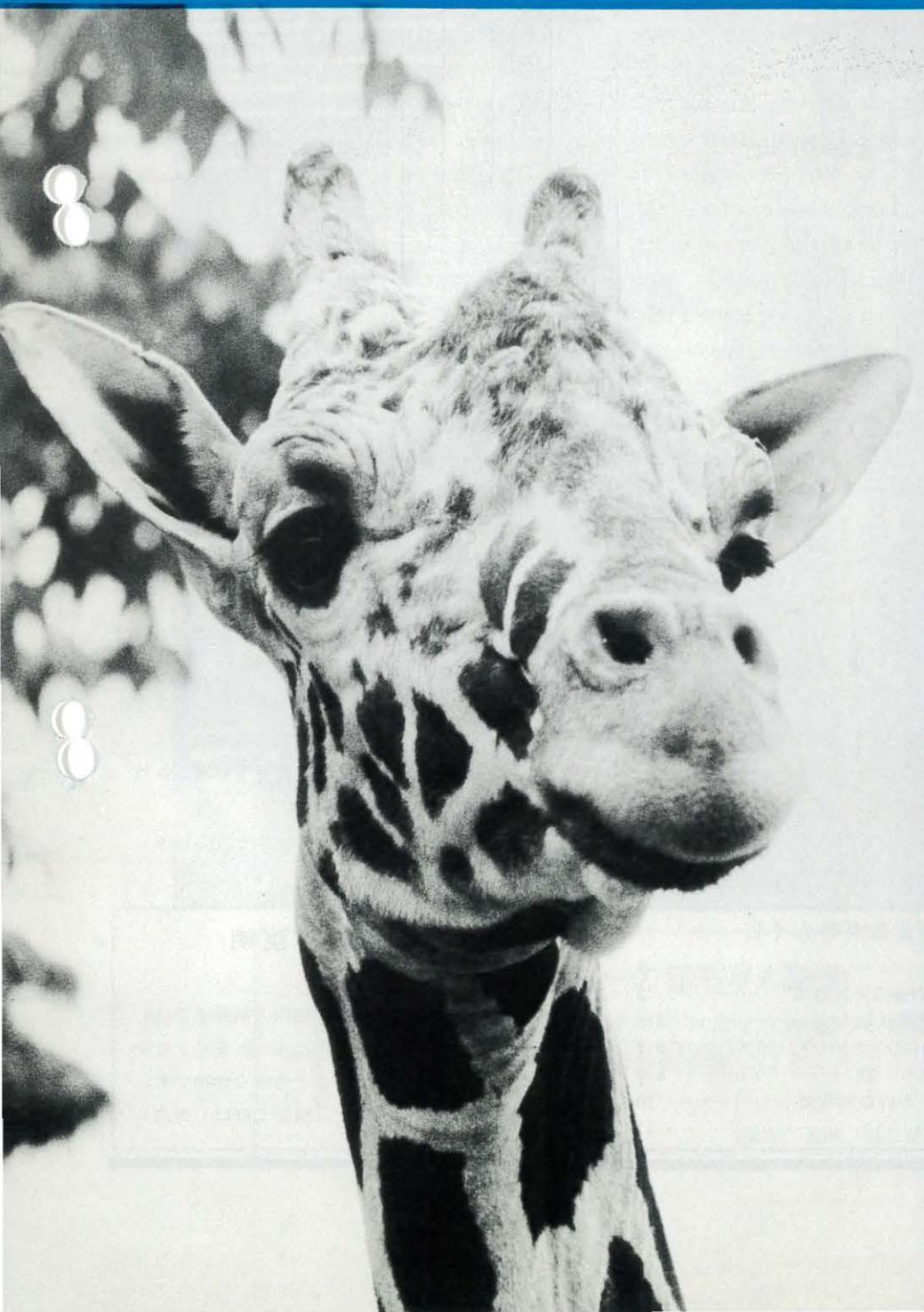


なきごえ



1979

6

大阪市
天王寺動物園協会

動物と私



三浦慎悟

「故郷」という歌がある。東京に生まれた私にはこの曲のイメージに重なるような山や川の記憶などないのだが、それでもひどくこの歌には郷愁を感じる。昔の事を懐かしむ程の年でもないのだが、どうやらそれは東京近郊のM市での思い出によるらしい。私たち一家がある事情からM市に移り住んだのは私が中学一年の時だった。それは数年を経ずしてこの町が急速に都市化の波に洗われていく僅かに前のことで、農村の佇まいがまだ私たちのまわりにはひろがっていた。家の前には小さな川が流れ、夏になるとアシが川面を覆いヨシキリの声がやかましい程に聞こえていた。私と動物たちとの出会いもまたこの時に始まった。

その年の冬、ある時、農家の防風林のそばを通りかかると、かすみ網にもがく鳥に気づいた。その頃はまだ公然とかすみ網罟がやられていて、それがどうやら鳥を捕える道具であることだけは知っていた。しかし、現にそこへ鳥がかかるという事態を理解するには少々時間が必要であった。私は立ちすくんだ。ツグミであった。もちろんそれがわかったのはずっと後の事であった。落ち着きとともに、スズメ以外に鳥がいることさえ知らなかった私は、その美しさに何かかけがえのない物を手に入れたような気分になっていた。私は躊躇なくかすみから鳥をはずし、オーバーの内側にかかえ込んで家に持ち帰った。古い鳥かごを近所からもらい、その中に入れ毛布をかけてやりそつとわきから覗いた。こんな鳥が自分

と同じ所に同居しているという事実は私には新鮮で大きな感動であった。ツグミは大部弱っていて数日で死んでしまったが、この事があってから私は速成の鳥キチになっていた。しかし、鳥キチにはちがいないのだが、その興味はもっぱら飼育することに集中していた。近所からもらったり、果ては自分でもかすみをかけたりして仲間をふやしていった。私の飼育癖は次第に手がつけられない程になった。当時の鳥獣店にはまだ野鳥のヤミルートが残っていたらしく何軒かのそこにはアカヒゲ、ルリカケスなどの珍鳥も含めてかなりの野鳥が店の奥の方に風呂敷をかけて出されていた。これらの鳥は私を大いに刺激した。毎日のように店に通い、毎月の小使いは例外なくこれらの鳥の購入にあてられた。母は電車通学をしていた私に何かあった時にと、なけなしの500円札を一枚定期の裏に入れておいてくれたのだが、何かと誤魔化して、時にはこれもが動員される始末であった。毎度持ち帰られる鳥達に「まあ珍らしい」などと最初の頃はしげしげと見つめていた母も、もうその頃には「またあ」の繰り返しに変わっていたので、「かすみにかかった」と言って付近の農耕地にいるはずもないイスカを買って帰った時なども別に不審がることはなかった。こうして、私の鳥かごには20種程の野鳥たちがしばらくの間滞在していった。

年令とともに自然の野山で野鳥たちと接する機会も増えるにつれて、私の犯罪的な飼育癖も次第に消えていったが、今でも飼育した種類の鳥に出会うと妙に懐かしさがこみあげる。

「故郷」の川は今ではコンクリートで護岸され、ヨシキリの歌はたえて久しい。

(兵庫医科大学・生物学教室助手)

なきごえ6月号もくじ

動物と私	2
“ボンネットモンキーの赤ちゃん誕生”	3
動物園グラフ・動物園日記	4・5
ニュージーランドのオトロハンガキウィハウスについて	6・7
天王寺のどうぶつたち ②7	8・9
第5回サマースクールのお知らせ	10
動物園ニュース	11

表紙の写真説明

“キリン”

昨年10月におこなわれた動物人気投票では、1,913票を集め、堂々第2位に入ったキリンですが、こうやって顔だけ見ると奇妙な動物です。

(撮影：野口 秀高)



“ボンネットモンキーの赤ちゃん誕生”

5月16日早朝、ボンネットモンキーにオスの赤ちゃんが生まれました。母親は初めてのお産の割にはとても上手に育てています。

(撮影：長瀬 健二郎)

動物園グラフ

“ヒナ子誕生”

3月3日の“桃の節句”にフタコブラクダの赤ちゃんが生まれました。メスでしたのでおヒナ様にちなんで“ヒナ子”と名付けられたこの子は人工哺育でスクスク育ちました。

(撮影：長瀬 健二郎)



① 午前11時15分、陣痛が始まりましたが難産でした。



② 午後12時15分、獣医さんに助産してもらってやっと誕生。



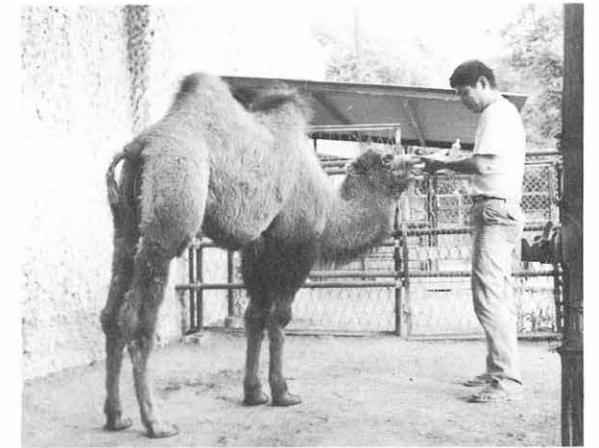
④ 午後12時28分、立とうとしますがなかなか立てません。



③ 午後12時24分、座われるようになりました。



⑤ 母親がミルクを飲ませてくれないので翌日から人工哺育をしました。体重は51kgでした。



⑥ 5月24日、こんなに大きくなりました。体重は130kgです。



⑦ 左から父親のムサシ、姉のミル、母親のサクラ。

5月の動物園日記

- 5/1. タンチョウが第1卵を産卵しました。4年連続のおめでたで、またもや記録を更新しました。
4. タンチョウが第2卵を産卵しました。クロザルの衰弱が著明なため入院させました。ゴシキドリの右肢が腫脹しているので薬をつけてあげました。
5. 子供の日、恒例の「ゾウの目方を測る会」

が昼から行なわれました。29才のハルコは4080kg、10才のヒロコは2240kgありました。トカラヤギに2頭の赤ちゃんが誕生しました。普通のヤギよりひとまわり小さいため、とても可愛いです。

6. 検便の結果、ヒグマのオスに回虫がいることがわかったため駆虫薬を飲ませました。シロカケイのメスがアスペルギルス症で死亡しました。キジ類にアスペルギルス症が見られたのは初めての事です。
8. ナベヅルが肢に外傷を負ったため、薬を塗

ってあげました。

10. チンパンジーのキャンディーが下痢をしているので投薬をしました。
- バードウィークにちなむ「ふるさとの鳥展」が北園展示館でオープンしました。5月末までです。
11. クロサイの交尾が確認されました。
13. 本年第1号のニホンザルの赤ちゃんが誕生しました。足の悪かったキツネがすっかりよくなったため退院していきました。

14. マレージャコウネコのメスの寄贈がありました。
16. ボンネットモンキーが出産しました。初産なので始めのうちは、仔の抱き方も知りませんが、そのうちうまく哺乳させるようになりました。
22. アシカの赤ちゃんが生まれました。
23. ニホンシカが出産しました。順調に哺乳しています。

ニュージーランドのオトロハンガ キーウィハウスについて

昭和45年、万博が開かれた時、ニュージーランドから贈られたキーウィは、今年で9年目をむかえました。

オスのニュージー君は近頃は毎晩巣から出て、遠くまで聞こえるカン高い声で元気に鳴いています。

オトロハンガ、キーウィハウスはオトロハンガ動物協会の私有で営利目的でなく、教育を通じて野性動物保護のため専念しています。このキーウィは国務省野生動物部門の許可のもとに展示しているものです。

(編集部)



オトロハンガ、キーウィハウスのキーウィ

《オトロハンガ夜行性キーウィハウス》

(オトロハンガ動物協会)

このキーウィハウスでは昼間と夜間を入替えて、昼間人工的な月光を照らし、日中キーウィが見学できるよう装置してあります。

キーウィには三種類あり、学名でアプテリックス・アウストラリス、アプテリックス・オーウェニ、アプテリックス・ハースティとされています。この三種類の中で一番知られている種はアプテリックス・アウストラリスでここで見られるキーウィはこの種から更に分かれた三亜種のうちの一亜種、アプテリックス・アウストラリス・マンテリイと言われる種類です。

キーウィが他の鳥と異なる特徴は鼻孔が口ばしの根元でなく先端近くに位置していること、尾がなく

翼もその痕跡をとどめるだけで飛ぶことが出来ず、またキーウィの卵は鳥の体と比較してかなり大きくその上、夜行性の鳥であること等が挙げられます。

オスと比較してメスは普通いくらか大きく、口ばしが長く、また鳴声を異にします。キーウィはその長い口ばしと嗅覚の敏感さを使って草木や腐朽した丸太をさぐって昆虫、ミミズ等の虫、またノイチゴ等の果実を食物にしています。視覚に恵まれない代り有用なヒゲ(猫のヒゲに似ている)が嘴のつけねにあり、露出した大きな耳で音を敏感にキャッチします。

卵は一つから三つまで産み、その重さは一つ約500gもあります。卵は土の中に掘った穴、又は丸太のような木の陰に産みます。そしてオスが約75日間、卵を抱きます。

キーウィは主に原始林の中にとじこもっていますが、まだ開拓されない牧場にも住むことが出来る様ある程度まで順応してきています。

ある地方にはまだ多数生存していると言われますが、ハンターや犬、又は規則に反したオポッサム用の罠等のため生存数は減少してきています。

《キーウィにちなんだマオリの伝説》

大昔のこと、ニュージーランドに住んでいたタネという名の森の神が鳥達と友情を結ぼうと鳥達に話しかけ、いろいろと知恵を授けました。

その頃はキーウィも飛ぶことができたのですが、何しろ非常になまけ者で肥る一方で殆んどの間、地上で御馳走にありつくことばかりに専念していました。そのため、たまたま飛ぶ努力をする度に嘲笑をかい、次第にはずかしがりやで敏感になり、しばしば他の目を避けてかくれるようになりました。

ある日のこと、タネが鳥類仲間を集めようと呼びかけた時、他の鳥は一斉に鳴いて答えたのですが、キーウィだけは返事をしません。タネは四方八方に使いを出してキーウィの名を呼びながら捜させたのですが、その目的を果すことが出来ませんでした。



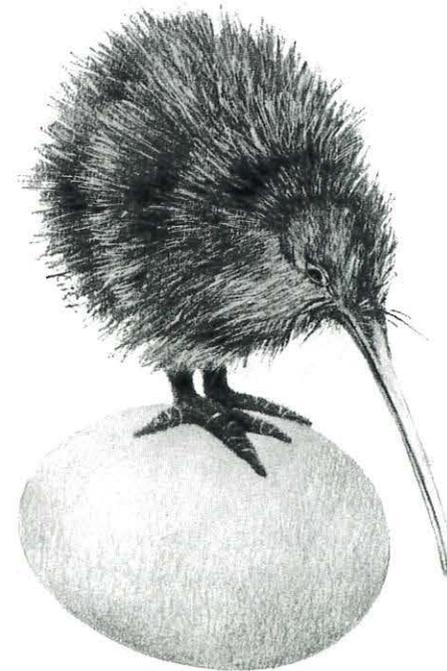
ロッテルダム動物園のキーウィ

なぜならキーウィは木の根奥深く隠れており、使者の呼び声は聞いたのですが、彼等が近づけば近づくほど、恐れて小さくなっていったのです。

タネはキーウィを捜しあてることを一時、諦めて他の鳥達と集会を開きましたが、たいへん怒って集まった鳥達にキーウィを見つけ出す様、そしてタネの怒りを伝えると同時に隠れていた理由を説明すべく出て来る様、命令しました。

キーウィは他の鳥達が自分呼びながらお互いにタネの怒りやしおきについて話しているのを聞いたものですから、ますます奥深く隠れるばかりで、夜が来るのを待って他の鳥が寝静まってから、そっと出て来て敏感な口ばしでミミズや虫を森の地面から捜して食物にし、ニュージーランドで初めての夜行性鳥になりました。

実はある日、森のフクロウがキーウィを見たのですが、この恥ずかしがりやの夜のハンターに同情して、他の鳥にキーウィの居処を教えなかったのです。



フランクフルト動物園のキーウィ

天王寺のどうぶつたち (27)

ヒョウ (下)



たくましいトムの横顔

§ 天王寺のヒョウ達

現在、天王寺には4頭のヒョウがいます。先月お話ししたハナヒョウのトムとボンベイ、クロヒョウの大黒とニジュールです。トムと大黒は天王寺生れです。

ボンベイはトムの母親で、父親はもうよその動物園に行ったクロヒョウです。トムはそのせいか、ボンベイに比べると毛色は少し黒っぽい感じがします。今度、トムの子供ができたとしたら、ひょっとするとその中にはクロヒョウが混っているかもしれません。

トムは49年の6月23日生れ。ですから、もう5才で、ヒトにたとえると20才から30才といったところでしょうか。

大黒は52年の6月13日生れ。こちらはまだ2才で、ヒトでいえば中学生から高校生位です。

§ 大黒誕生

大黒はもう1頭の兄弟と双子で生まれました。肉食獣はどれも暗いところでお産するため、産後明るくしておくとも母親が落ち着かず、子供を育てないとか、ひどい時には食べてしまうことさえあります。それで、この時も産室にはドンゴロスでカーテンをして、中は薄暗くしておきました。担当の三浦係員は近くを歩く時は静かに歩き、産室の中は掃除もせず、エサを投げ込む時だけカーテンを開ける、という程の気の使いようでした。そのおかげで母親もよく落ち着いて、一生懸命育児をしていました。しかし、5日目の6月18日、カーテンをほんの少し開け中をそっとうかがったところ、1頭の子供が死んでいました。引き取って解剖してみたところ、胃の中

には殆んどミルクが入っていませんでした。どう



ヒョウの尾。狩りの時、とても役に立ちます。

も母親が年をとっているため、乳の量が少ないようです。懸命に仔を育てている母親にはかわいそうだったのですが、このままでは残ったもう1頭の命もあやぶまれます。そこで残った方は引き取って人工哺育することになりました。

§ クロヒョウの人工哺育

引き取って体重をはかってみると515gでした。ヒョウの仔は普通500g程で生まれてきますから、生後6日たっても殆んど体重は増えていなかったのです。よほど母親のミルクの量が少なかったのでしょう。この仔には立派なクロヒョウになるように大黒と名付けました。

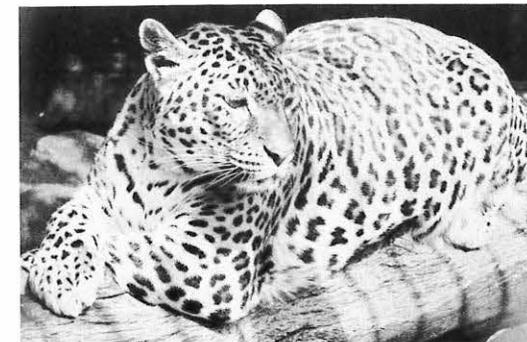
人工乳には犬用の粉乳を用いました。これはライオンやトラの場合でも同じです。しかし、大黒は5日間母親の乳首から母親の出す母乳を吸っていたのですからすぐに人工の乳首と人工のミルクに慣れるはずがありません。口に乳首をふくませてもすぐグイッと顔を横にむけ乳首を口から出してしまいます。

仕方なく無理矢理流し込むようにしてミルクを飲ませました。哺乳は朝の8時から夕方6時までの間に2時間おき6回です。

3日目からようやくなれたのか自分で吸うようになってきました。しかし、ライオンなどちがいヒョウはとてもデリケートで、飲んでる内にミルクが少しでも冷たくなったり、哺乳ピンを持つ手を動かしたりするとすぐ飲むのをやめてしまいます。ですから、ミルクが冷えないよう何度も暖めなおし、また、懸命に飲むあまり爪をたてるのですが、その鋭い爪が皮膚にくい込んで動くとも飲まなくなるので、痛さをぐっとこらえて飲みおわるまでじっとしてはなりません。哺乳ピンを持つ三浦係員の右手はミミズ腫れを通り越して、しょっ中キズができていました。

§ ピンチ!!

痛さをぐっとがまんしたおかげで、大黒は順調に大きくなりました。このまま行けばもうすぐ離乳だと思っていた矢先、歯がはえそろうはじめていた大黒は、乳首をガブリとくんでしまったのです。ヒトの子でもよく乳首をくんで遊んだりするそうですが、



木の上で休むボンベイ。野生でもこんな姿勢で獲物を待つのかも知れません。

ヒョウにかまれると乳首などひどく痛みもありません。パツパツと切れて、ミルクが流れ出すようになってしまいました。あわてて、新しい乳首を買って求めて哺乳しようとしたが前の古い乳首のやわらかさとは感触がちがうため飲もうとしません。そこでやわらかくするため、約1時間熱湯で煮てみました。しかし、それでもやはり飲みません。ヒョウのデリケートさがアダになってしまいました。しょうがないので、少々早いのですが離乳を始めました。馬肉をミンチにして、1gずつの小さな団子にし、口に押し込むのです。これはうまくいったのですが急にミルクをやめるわけにはいきません。そこでカテーテルを使って強制的に胃へミルクを流し込むことにしました。1日4回、2人がかりで大黒を押え

込み、カテーテルでミルクを流し込みました。やはり大変気持ちが悪いのでしょうか、なにが起るかまだわからないうちはスムーズに飲ませられていたのですが、1週間もするうち、いやがって、もうカテーテルを見ただけで、神経性の下痢をしてしまうようになりました。体重の増加もここへ来て、ガクンと下降線です。このままでは衰弱してしまいます。完全離乳にはまだ20日位も早すぎたのですが、思い切って肉食だけに切り換えました。馬肉のミンチ団子を無理矢理口の中へ押し込みます。この頃にはもう歯も完全にはえそろうていましたから、よくきらってガブリと指を噛まれたものです。

§ ピンチ脱出

完全離乳にはまだ20日も早いのですから、ミンチ団子をやりはじめた時は便も不消化便で、体重も依然伸びません。しかし、1週間程のうち、やっと肉を消化するようになり、体重もようやく上昇しはじめました。肉食だけに切り換えた時、体重は標準から見ると300g近くも少なかったのですが慣れてからはグングン伸びて生後90日目には標準を追い抜いてしまった程です。



すっかりたくましくなった大黒

§ おわりに

三浦係員の人に言えぬ程の様々な苦勞で、大黒は立派に成長しました。最近ではとてもオスヒョウらしい立派な体格になりました。もう少ししたらかわいいお嫁さんを迎えてあげて、1日も早く可愛い2世を作って欲しいと思います。

(長瀬 健二郎：飼育課獣医師)

第5回天王寺動物園サマースクール開講のお知らせ

大阪市天王寺動物園と大阪市立自然史博物館との共催で、夏休み中の子供たちのために、7月22日からサマースクールを開きます。

動物園で動物の観察や飼育の勉強をしたり、博物館で動物の体のしくみを調べたりするこのサマースクールは、今年で5回目を迎えます。サマースクールの実施内容と募集要領は下記のとおりです。

- 日時 7月22日(日)～8月1日(水)
午前9時30分～午後3時
(第3日目のみ12時15分まで)
3組に分けて受講
第1組 7月22日～7月24日
第2組 7月26日～7月28日
第3組 7月30日～8月1日
- 会場 第1・2日目 大阪市天王寺動物園
第3日目 大阪市立自然史博物館
- 参加資格 小学校4・5・6年生
ただし保護者の同意があって居住地から会場まで3日間通えるもの。
- 参加経費 1人500円(資料、記念写真代)
- 持参品 弁当と水筒(第1・2日目のみ)
筆記用具
- 定員 各組80名、計240名
応募者多数の場合は抽選します。

7. 申し込み方法

7月5日までに必着するよう往復ハガキで動物園まで申しこんでください。なお往復ハガキに

- サマースクール第〇組に参加希望
- 住所(電話番号)
- 氏名、学校名、学年
- 保護者氏名

を記入し、返信用ハガキにも住所、氏名を必ず記入してください。

(注)申し込みの組をはっきり指定して応

募してください。

8. 参加者の決定

7月6日に抽選の上、返信用ハガキで通知します。

- 内容 動物園：動物の観察や飼育係の仕事を見学し、動物に関する話を聞く。
自然史博物館：動物の頭や体のしくみを調べたりスケッチする。

- その他 (1)実習当日の詳細については参加決定者に連絡します。
(2)保護者の参加は認めません。送迎のみにしてください。

11. 申し込み連絡先

〒543 大阪市天王寺区玉水町2
大阪市天王寺動物園
TEL. 771-8401

ボランティア募集中!

毎年夏休みに、小学生高学年を対象としたサマースクールを開催していますが、今年も上記の通り開催を計画しています。そこでこのサマースクールをお手伝いしていただけるボランティアを募集し、少しでも多くの子供たちに動物とのふれあいを通じて情操教育の機会を与えてあげたいと考えています。

ボランティアとしての資格は時に必要なく、動物や自然を愛する気持の強い大学生又は短大生、及び一般の方で、サマースクール期間中、奉仕していただける方の応募をお待ちしております。

応募の受付は天王寺動物園(TEL 771-8401)で行っております。ボランティアの研修日程の都合上、6月30日で締切らせていただきます。なお応募は7月22日～8月1日の全期間もしくは各組だけでも結構です。

動物園ニュース

§ タンチョウ産卵

このところ3年連続産卵育雛に成功し、合計7羽の大世帯になっているタンチョウが今年もまた産卵しました。ただ、昭和51年は5月28日、52年は5月27日と30日、53年は5月13日と16日だった産卵日が今年5月1日と4日とまた繰り上りました。これは単に暖冬の関係だけではないようです。



タンチョウのフ化日数は約1ヶ月ですので、6月初旬にはヒナが2羽フ化し、タンチョウは合計9羽となりそうです。係員一同首を長くしてその日を待ちわびています。

§ シュバシコウのフ化

これも天王寺の名物となったシュバシコウですが、4つの巣で、例年通り3月末から抱卵を始めていました。5月の始めにはもう1巣でも抱卵を始め、計5巣となりましたが、このうち3つの巣でヒナがフ

はキツネの仔が1頭保護されてきました。これは伊賀上野の山中でさまよっているところを保護されたのですが、とても人なつこく、エサもよく食べています。すぐ研究室に収容され、手厚い看護のおかげですっかり元気になりました。

4月28日、30日、5月4日と3羽のアオバズクが保護されてきました。この鳥は夏を日本で過ごすクロウの仲間ですが、3羽の内2羽は衰弱が激しく、保護されてきて間もなく死亡してしまいました。しかし残った1羽は自分で餌を食べることも覚え、とても元気になってきました。



5月11日にはサシバの保護がありました。この鳥は小さなワシの仲間ですが、やはり夏を日本で過します。来た時はとても衰弱が激しく立ってない状態だったのですが、エサを無理矢理口に押し込んで食べさせる“サシ餌”という方法をとったせいか、これも大変

くらしを彩るショッピング



近鉄百貨店

アベノ店(06)624-1111・上本町店(06)779-1231
東京近鉄(0422)21-3331

・近鉄百貨店グループ

大阪(アベノ・上本町)・東大阪・奈良・京都・岐阜
枚方・四日市・和歌山・徳山・別府・東京(吉祥寺)

第5回天王寺動物園サマースクール開講のお知らせ

大阪市天王寺動物園と大阪市立自然史博物館との共催で、夏休み中の子供たちのために、7月22日からサマースクールを開きます。

動物園で動物の観察や飼育の勉強をしたり、博物館で動物の体のしくみを調べたりするこのサマースクールは、今年で5回目を迎えます。サマースクールの実施内容と募集要領は下記のとおりです。

1. 日時 7月22日(日)～8月1日(水)
午前9時30分～午後3時
(第3日目のみ12時15分まで)
3組に分けて受講
第1組 7月22日～7月24日
第2組 7月26日～7月28日
第3組 7月30日～8月1日
2. 会場 第1・2日目 大阪市天王寺動物園
第3日目 大阪市立自然史博物館
3. 参加資格 小学校4・5・6年生
ただし保護者の同意があって居住地

応募してください。

8. 参加者の決定
7月6日に抽選の上、返信用ハガキで通知します。
8. 内容 動物園：動物の観察や飼育係の仕事を見学し、動物に関する話を聞く。
自然史博物館：動物の頭や体のしくみを調べたりスケッチする。
11. その他 (1)実習当日の詳細については参加決定者に連絡します。
(2)保護者の参加は認めません。送迎のみにしてください。
11. 申し込み連絡先
〒543 大阪市天王寺区玉水町2
大阪市天王寺動物園
TEL. 771-8401

遊園施設委託経営・製作・販売



久竹娛樂株式会社

本社工場 大阪市西区北堀江1丁目23番21号
電話 大阪(06)541-3112・3938 番

動物園ニュース

§ タンチョウ産卵

このところ3年連続産卵育雛に成功し、合計7羽の大世帯になっているタンチョウが今年もまた産卵しました。ただ、昭和51年は5月28日、52年は5月27日と30日、53年は5月13日と16日だった産卵日が今年5月1日と4日とまた繰り上りました。これは単に暖冬の関係だけではないようです。



タンチョウのフ化日数は約1ヶ月ですので、6月初旬にはヒナが2羽フ化し、タンチョウは合計9羽となりそうです。係員一同首を長くしてその日を待ちわびています。

§ シュバシコウのフ化

これも天王寺の名物となったシュバシコウですが、4つの巣で、例年通り3月末から抱卵を始めていました。5月の始めにはもう1巣でも抱卵を始め、計5巣となりましたが、このうち3つの巣でヒナがフ化し育っています。5月20日現在、計6羽を確認



しています。巣が地上約10mの高さにありますので、ヒナが小さい間は仲々見えませんが、この号が出る

頃にはヒナも大きくなって可愛い姿を見ていただけだと思います。

§ 保護動物

野生での渡りと出産のシーズンが始ったせいか、4月から5月にかけて多くの保護動物がありやした。

先月号でお知らせしたように4月11日、ニホングマの子供2頭が保護されましたが、5月11日に



はキツネの仔が1頭保護されてきました。これは伊賀上野の山中でさまよっているところを保護されたのですが、とても人なつこく、エサもよく食べています。すぐ研究室に収容され、手厚い看護のおかげですっかり元気になりました。

4月28日、30日、5月4日と3羽のアオバズクが保護されてきました。この鳥は夏を日本で過すクロウの仲間ですが、3羽の内2羽は衰弱が激しく、保護されてきて間もなく死亡してしまいました。しかし残った1羽は自分で餌を食べることも覚え、とても元気になってきました。



5月11日にはサシバの保護がありました。この鳥は小さなワシの仲間ですが、やはり夏を日本で過します。来た時はとても衰弱が激しく立てない状態だったのですが、エサを無理矢理口に押し込んで食べさせる“サシ餌”という方法をとったせいか、これも大変元気になりました。まだ自分で餌を食べようとはしませんが、間もなく覚えてくれると思います。

§ 上海市へキリンを贈りました

第3次動物交換として、昨年上海市西郊公園からコウノトリのペアを贈られたお礼としてキリンのペアを5月23日、尼崎港から中国船清水号に乗せて送



りました。第1次動物交換で送ったアシカはもう繁殖したようですが、このキリンもあと数年もすれば2世誕生の知らせを聞くことが出来ると思います。

毎月第3月曜日は休園日です。9月までの休園日は下記の通りです。

6月18日、7月16日、8月20日、9月17日。

開園時間は9時半から5時までで、4時半に切符売止めになります。

なきごえ 昭和54年6月15日発行(毎月1回15日発行)

編集/大阪市天王寺動物園

発行人/大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)

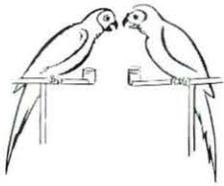
第15巻第6号(通巻166号)

〒543 大阪市天王寺区玉水町2

電話 大阪 (06)771-0201

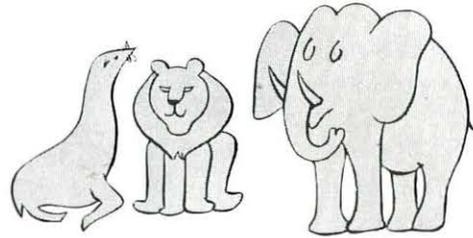
振替口座 大阪 37823

1年継続(12部)1,100円(送料共)



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517
 飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はっさい含まれていません。



雪印ヨーグル

各130cc.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員 < 板野 健一・前木 妙子・大野 尊信・榊原 安昭・樽本 勲・中川 道朗・高橋 真三・農本 武志 >
 < 石島 宏胤・野口 秀高・宮下 実・橋本 一郎・長瀬健二郎・三浦 正明・霞谷 文彦・仲谷 登 >